



令和8年 5月29日(金)
静岡 大学 教育学部
附属 静岡 小学校
3年 学年だより 6月号

「勝ち負け」の、その先へ

運動会に向けた大玉運びの練習では、どのクラスも「もっと速くなりたい」「勝ちたい」という思いを強くもちながら取り組んできました。初めの頃は、思うように大玉を運ぶことができず、落球したり、走るスピードが合わなく揉めたりする姿も多く見られました。タイムが伸び悩む中で、子どもたちは「どうすればもっと速くなるのだろう」と考え続けていました。そのような中、実行委員を中心に、自分たちで撮影した動画を見返しながら話し合う姿が見られるようになりました。「スティックの持ち方を変えてみよう」「フォーメーションを決めた方がいいんじゃない?」「バトンパスみたいにつなげたら落としにくいかもしれない」など、互いの考えを出し合いながら、よりよい方法を模索していきました。教師から与えられた作戦ではなく、自分たちで見つけた課題に向き合い、改善し続けていく姿からは、クラスで一つのものを創り上げようとする熱意が感じられました。その結果、練習を重ねる中で、どのクラスも最初のタイムから3分以上縮めることができました。結果に一喜一憂する姿もありましたが、その背景には、互いに声を掛け合い、支え合いながら積み重ねてきた時間があります。ある子は「運動会で勝てなくて悔しかったけど、みんなで協力してきたことに意味があると思う」と話していました。また別の子は「みんなでここまでこれで良かった。みんなありがとう」と振り返っていました。

勝敗だけでなく、そこに至るまでの過程に目を向け、自分たちの歩みを価値付けようとする姿に、子どもたちの大きな成長を感じています。運動会を通して培われた「仲間と共に考え、支え合いながら進んでいく力」は、これからの学校生活の中でも、子どもたちを支える大切な力になっていくのではないかと思います。

“みんな”が楽しい会にしよう

今年度最初の実習生を迎えてから、2週間が経ちました。子どもたちは、実習生の先生との関わりを楽しみながら、日々の学習や活動に意欲的に取り組んでいます。実習生を迎える会に向けた話し合いでは、実行委員が事前に「どんな会にしたいか」「どんなことを共有したいか」を整理し、クラスへ提案していました。そのため、話し合いはとてもスムーズに進み、子どもたちは「誰のための会なのか」という共通の視点をもちながら考えることができていました。活動の中では、ある子が「実習生のためでもあるんだけど、自分たちも楽しもう。そうしたら、お互いが楽しくなって素敵な会になると思うんだけどな」とクラス全体に投げかける場面がありました。その言葉をきっかけに、子どもたちは「相手を楽しませること」と「自分たちが楽しむこと」は別々ではなく、つながっているのだということに気付き始めていました。司会や遊びの準備、役割分担など、一つ一つを自分たちで考えながら進めていく姿からは、クラスを自分たちで創っていく意識の高まりを感じます。実習生との出会いを通して生まれている新たな関わりや学びが、これからの学校生活をさらに豊かにしてくれることを願っています。

